

『特別な風景』

楳内泰葉

全て見慣れた景色だった。

鎌倉幕府の跡地という今思うととても立地の良い小学校に通っていた幼少期の私には、なぜこんなにも鎌倉が人気なのかよく分からなかった。綺麗な赤の鳥居も、段葛の桜も、街に立ち並ぶ老舗のお店も、毎日必ず通る通学路の一部に過ぎず、その上小学校の授業で一年間鎌倉を調べ尽くしていたので、正直鎌倉の景色には飽きていた。しかしそんな私も年相応の感性を持っていたので、鶴岡八幡宮の境内にある屋台のりんご飴や、若宮大路のソフトクリームなどは、寄り道できないからこそ、とてもキラキラしていて特別に思えた。私の小学生時代の鎌倉への興味なんてその程度だった。

中学に進学し、私は鎌倉の町から離れた。

中学生になると、出かけるが増える。遊ぶ場所は都会なことが多かったが、小学校の

級友とたまたま鎌倉を訪れた時、私は初めての場所に旅行に来たような気持ちになった。

久しぶりに見る鎌倉の風景は、全てが綺麗で、右を見ても左を見ても素敵な店で溢れていて、美味しそうな食べ物が並んでいて、小学生だった頃とそこまで変わらないはずなのに感動してしまった。

それから私はよく鎌倉に通う様になった。良い匂が漂う小町通りも、人通りの少ない御成通りも、都会の喧騒とはかけ離れた安心感や温かみがあって、歩いているだけでワクワクしながらも、なんとなく心が落ち着く、そんな鎌倉の空気が私は大好きだ。

小さい時は分からなかった鎌倉の魅力に子供ながらも気付けたような気がして嬉しかった。私の小学校生活、そして中学に上がってからの私の思い出も彩ってくれる鎌倉を、私はこれからも大切にしていきたい。